

学びの成果を自ら検証・共有する」ことで、 生徒の自己肯定感を高める

取手第二高校(茨城・県立)

取材・文／笹原風花



進路指導主事
小澤賢一先生

多面的な自己・他己評価で
「自分にもできる」を引き出す

取手第二高校では昨年度から、前・進路指導主事の坂田和也先生の発案により、1・2年生を対象に、生徒が自らの学びや成長を振り返り発表する「Toride IIの流儀」と題した取組

を行っている。昨年度は1年の締めくくりとなる3学期に、特別活動(以下、特活)と総合的な学習の時間(以下、総学)を連携した講座として行われた。生徒は、「自分ががんばっていること」について、具体的な内容やそれに取り組むことを通して学んだこと、感じたこと、変化、さらに今後どう活かしていくか、

課題は何かといったことを、ワークシート(図1)に書き込んでいく。取り上げる活動はどんなことでもいい。部活や学校行事、習い事やボランティア活動、資格・検定に向けた勉強などのほか、礼儀や人間関係を挙げる生徒もいる。実践を振り返りながら言語化することで、成長への気付きを促すのだ。「Toride IIの流儀」を始めた背景について、進路指導主事を務める小澤賢一先生はこう語る。

心が揺れることで
考えるきっかけになる

記入したワークシートは、グループ内で共有する。ぎゅしりと書いている生徒を見て、書き込み量が少ない生徒は「すごい」と驚く。このときの心の動きを小澤先生は「揺れる」と表現する。

「普段あまり勉強が得意ではない子がたくさん書いていたりすると、それを見た生徒の気持ちは、その意外性にさらに揺れます。教員が揺らすことも大事ですが、生徒同士が揺らし合う方が刺激になります。すごいな、終わるのではなく、自分もやろう、努力すればできる、とポジティブに捉えてほしい。実際、事後アンケートでは、刺激を受けた、自分の将来について考えるきっかけになった、などという声が多く寄せられました」

取手第二高校はいわゆる進路多様校で、卒業後すぐに就職する生徒も少なくない。そうしたなかで、「自己肯定感が低いまま社会に出てしまうと、がんばっている人、すごい人と思う人を見

たときに、「自分はダメだ」と諦めたり萎縮したりしてしまう。そこで「自分もがんばろう、自分にもできるはずだ」と思って努力し、成長し続けるためには、高校生のうちに自己肯定感を高め、おかげにならない、という課題があった」と小澤先生は言う。

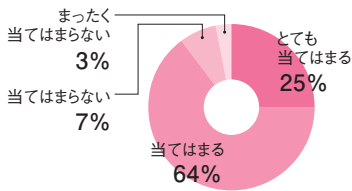
図1 「Toride IIの流儀」ワークシート(2年生の例)

取手二高「Toride II」の流儀				
テーマNo.		具体的内容		
テーマ選択理由				
主な活動内容	工夫・こだわりポイント	そこから見えた自分の特徴	充実度と感想	
努力の結果				
何が	どのように変わった	周囲の反応はどうなった	自分の気持ち	
これからどう活かす				
何のために	いつ・どこで	誰に	何を・どうする	その結果周囲の反応・自分の気持ち
進路目標				
目的と理由				
求められる人物・能力				
目標達成の方程式	自分の持っている能力 × 成長させる能力 = 進化した自分の姿や成績・実績			
	× =			
そのために、これから…				
何が	どれくらい足りない	そのために何を	どれくらいやるか	達成期限(年月日)
達成したら(想像)	①達成した時の自分の気持ち ②応援してくれていた人たちの反応			
覚悟・意気込み				

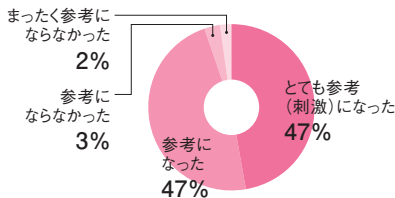
※学校の資料を基に、編集部にて作成

図2 学びの総括プレゼン大会
「Toride IIの流儀」アンケート

プレゼン(ポスター作成)を通して、
今後の活動に対する気つきはありましたか?



他者のプレゼンの活動内容で
参考になるものはありましたか?



プレゼンを聞いた生徒は付箋に感想を書いて貼り付ける。実践を通して生徒の積極性を引き出すことが目的のため、順位づけは行わない。



「Toride IIの流儀」の一連の取り組みを振り返り、小澤先生は「予想以上の成果だった」と話す。

「発表した生徒にとっては、人前で発表したことや、自分では大したことないと思っていた取り組みが評価されたことで、自己肯定感の向上につながったようです。また、プレゼンを聞いた生徒にとっても、気づきや学びの多い、心が揺れる場になったことは、とても良かったと思います」

振り返りによる
自己認識を重視する

「思った以上に多様なテーマが出てきて、自分の進路や将来につなげて書く子も多く、驚きました。生徒自身が自分の成長を振り返る良い機会になっただけでなく、仲間の意外な一面を知ることや、クラス内の関係性もより円滑になったように感じます。また、学びの総括プレゼンを学年混合で行ったことで、1年生なのにすごいなあ、2年生になるとああやって進路を考えるのか、などと、同年代だけでやるよりもお互いにとって刺激の多い場となったと思います」

取手第二高校では「Toride IIの流儀」以外にも、生徒が自分自身の学びや成長を振り返る機会を意識的に設けてきた。その軸となるのが、特活だ。LHRでは、定期テストや学校行事などのイベントの後には、必ず振り返りを行っている。

「定期テストや模擬試験の振り返りでは、順位や得点だけで成果を判断するのではなく、前回と比べてどこが伸びたか、なぜできなかったか、自分はどこが弱いか、今後どうすればいいかなどを検証し、スタディサプリのポートフォリオに記入させています。また、学校行事の後には、何が大変でそれをどう乗り越えたか、そこから何を学んだかといったことを振り返り、同様に記入させています。試験も行事もやりっぱなしに

生徒の声

「学びの総括プレゼン」で発表した皆さん

- **気づかいの流儀**—修学旅行を通して学んだこと
ゴンザレス・リーナさん(3年)
「行動力をつけたい」と発表したところ、「(生徒会をやっている)すでに行動力あるよ」というコメントをもらい、自分の意外な面に気づかされました。
- **私の流儀**—家庭学習について
神林正代さん(2年)
看護科のある大学への進学を目指して力を入れている家庭学習について発表しました。「将来に向けて勉強していてえらい」というコメントに励まされました。
- **全力の流儀**—検定合格に向けて全力で取り組んだこと
小川 蘭さん(2年)
プレゼンには全然自信がなかったのですが、「笑顔がいい、聞きやすい」というコメントをもらい、自信ができました。人前で話すのは良い経験になりました。
- **私の流儀**—一人とのつながり方について
小日向 月斗さん(2年)
習い事の空手を通して学んだ礼儀作法について発表しました。先輩から「後輩なのに将来について考えていてすごい」と

- コメントをもらい、自信になりました。
- **私の流儀**—文化祭を通して
西田英奈さん(3年)
「Toride IIの流儀」は将来どうなりたかを見つめ直すきっかけになり、後回しになっていたやるべきことをきちんとやろうという気持ちになりました。
- **自己改革の流儀**—日常生活で自分の意思を持って生活する
櫻田遥香さん(3年)
「自分に足りないものに気付けたことがすごい」というコメントがうれしかったです。「Toride IIの流儀」を通して、進路を具体的に考えるようになりました。



写真前列右から、ゴンザレスさん、神林さん、小川さん。後列右から、小日向さん、西田さん、櫻田さん。

しないのはもちろん、言語化して記録として残すことを強く意識しています。3年間の学びを目に見えるかたちで蓄積しておくことで、学びや成長を自己認識でき、大学入試や就職にもつなげていけるのです」

また、以前より、3年次には特活の一環として「進路報告会」を実施している。卒業を目前に控えた生徒が、1・2年生の前で高校3年間の学びを振り返りながら、自分が進む道について発表するという場だ。

「大学・短大や専門学校に進学する生

徒もいれば就職する生徒もいるという多様な進路状況のなかで、本校の生徒は自分自身で道を決めていかなければなりません。1・2年次の「Toride II」を進路選択の途中経過と位置づけ最終的に3年次の「進路報告会」につながる流れを作りたいと考えています」

振り返りによる自己認識を重視してきた取手第二高校。「特活は生徒の将来に向けた土台づくりの場」と小澤先生が言うように、同校では進路選択や自己決定に向けたステップとして、特活が重要な役割を果たしている。